

( 素 案 )

# 伊達市都市計画マスタープラン



＝ ほのぼの いっぱい 伊達市 ＝

【 基本構想 概要版 】

## 1. 都市計画マスタープランとは

都市計画マスタープランは、都市計画法第18条の2に規定された「市町村の都市計画に関する基本的な方針」で、将来のまちづくりの方向性を明確化するとともに、諸施策の基本方針を示すものです。

また、地域の特性を活かしたまちづくりを推進するため、地域に密着した施策、時代のニーズに応じた都市づくりに市民の参加を促すなどの役割があります。

伊達市都市計画マスタープランは、旧5町の合併により誕生した伊達市において「伊達 織りなす未来 ひとつの心」を実現するため、スマート（賢明で、快適で、エコ）で、安心して住めるまちづくり（健・幸都市）を目指す、伊達市の将来の姿を明確にし、土地利用や都市整備の方針を定めます。

## 2. 都市づくりの理念

### 1. みんな元気なまち

少子高齢社会のなか、医療や福祉の充実、ノーマライゼーションの推進は都市づくりにとって欠かせないものとなっています。子どもが元気よく遊べ、高齢者が健康で自立した生活を送れるには、こうした施設の整備、制度の拡充が必要です。すべての市民が、安全・安心・快適にのびのびと毎日を過ごせる都市づくりを目指します。

### 2. いきいきと自立するまち

本市は、それぞれの歴史や文化、都市機能を持つ、特性のある旧5町が合併し形成されています。今後もこれら5地域がもつ特性を活かしながら、市民がかげがえのないふるさとを誇りに思え、市民がいきいきと暮らせ自立する持続可能な都市づくりを目指します。

### 3. 結いが循環するまち

私たちの生活は、周囲との助け合いによって成り立っています。家族、友人、地域など、それぞれとの結びつきを大切にしなければなりません。こうした結びつきこそが「結い」であり、それは人だけでなく、私たちを取り巻く自然環境との間にも必要不可欠です。

さまざまな社会問題、環境問題が叫ばれる今日、人や地域、自然との「結い」を大切に、いつまでも絶やすことなく受け継いでいける、循環する都市づくりを目指します。

## 3. 都市フレームの目標

近年の急激な少子化傾向と人口減少の現実を直視しつつ、将来においてゆとりある都市としての発展と振興を図るため、物理的にも心理的にも豊かな都市環境の形成を積極的に推進し、ゆとりと潤いのなかでみんなが定着する都市づくりを推進していくことを前提にして将来人口を設定します。

中間目標年次の平成32年に65,000人、最終目標年次の42年には64,000人と設定します。

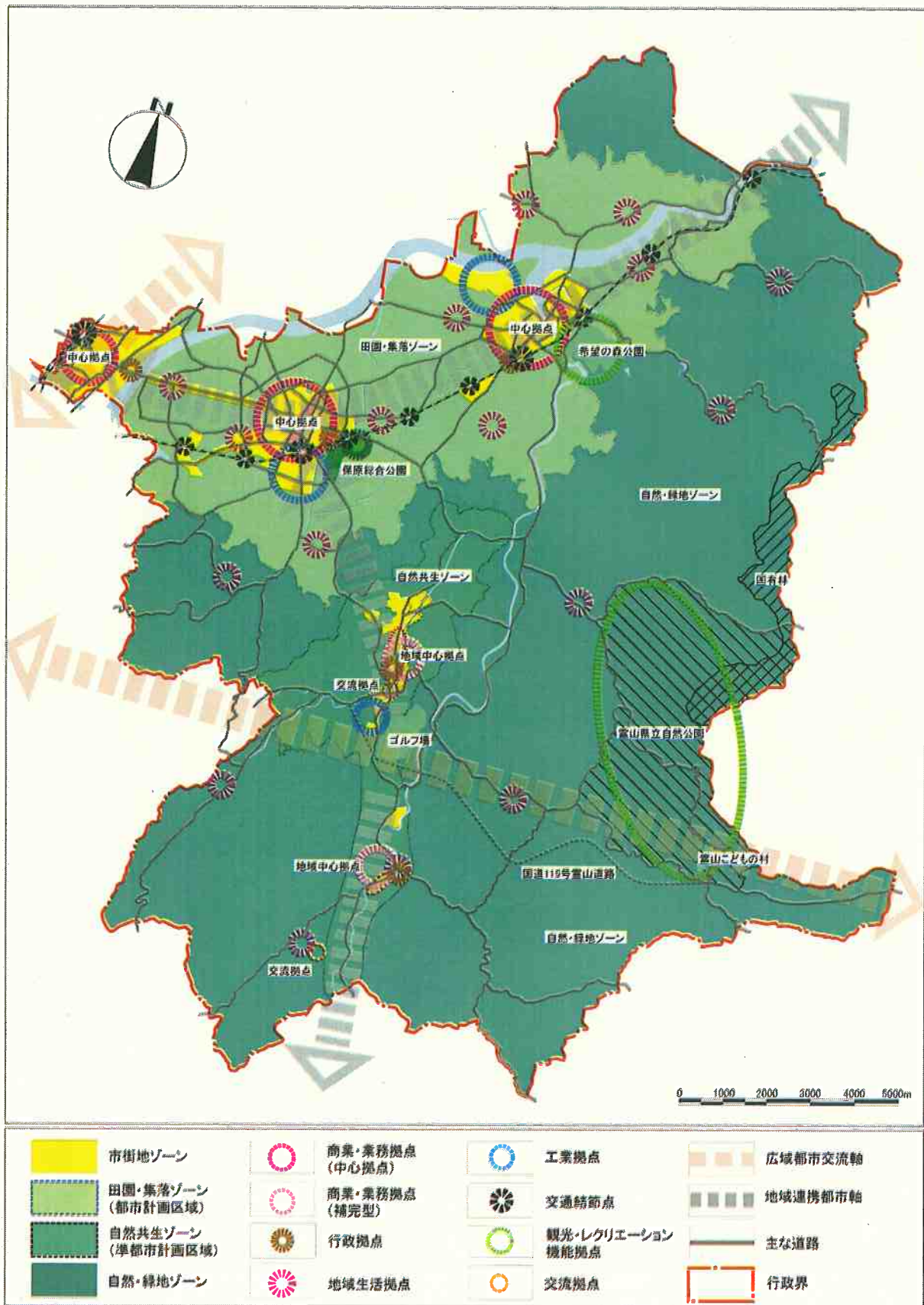
## 4. 将来都市像

### ほのぼの いっぱい 伊達市

本市には、長い年月をかけ地域で育まれてきた暖かい人情や、我々の生活の基盤である肥沃な田園、また心の支えとなり心を和ませてくれる山河・里山風景などの豊かな自然や個性的な風土行事などがあります。今後もこれらの地域特性を守りながら、高齢者から子どもまですべての市民が、地域ぐるみの支援と協働により、皆が元気に安心してのびのびと心豊かに暮らせ、長生きできる都市づくりを目指します。

人口減少の傾向は、本市においても例外ではなく、将来的に継続するという推計結果があります。また、今後の社会・経済の動向は不透明な点が多く見られます。このような現状を慎重に見据えて、安易な拡大指向はせずに既存の諸施設を活用しながら、質的な向上と交流の拡大を図りつつ、創造性や個性、ゆとりや美しさ、あたたかみ、といった“こころ”を重視する、快適で魅力あるほのぼのとした都市の実現を目指します。

図. 将来都市構造図



5. 地域別将来像

1) 伊達地域

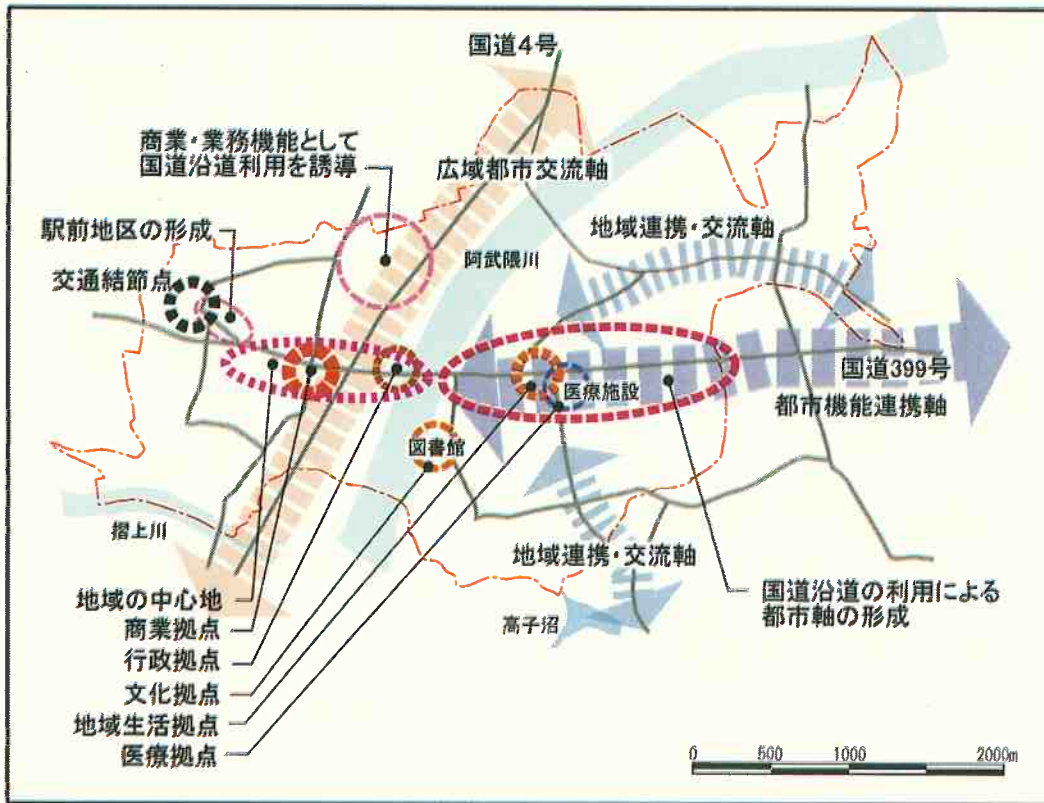
<地域の将来像>

**「人に 自然に 笑顔輝く 結いのまち」**

国道4号や国道399号、JR東北本線伊達駅の有効な資源を活用し、住・商・工が、そして自然がバランスよく配置され、地域全体に笑顔と「結い」があふれる地域づくりを目指します。

<拠点の配置方針>

- ・国道4号沿道に沿道型商業・業務拠点を適正に配置し、地域づくりを進めます。
- ・国道399号沿道は、都市機能連携軸形成にふさわしい沿道施設を適正に配置します。
- ・伊達市の玄関として交通拠点を配置し、東北本線伊達駅周辺地区の整備を図ります。
- ・愛宕山一帯にはレクリエーション機能を配置し、市民が身近で楽しめるレクリエーション施設の整備を推進します。





### 3) 保原地域

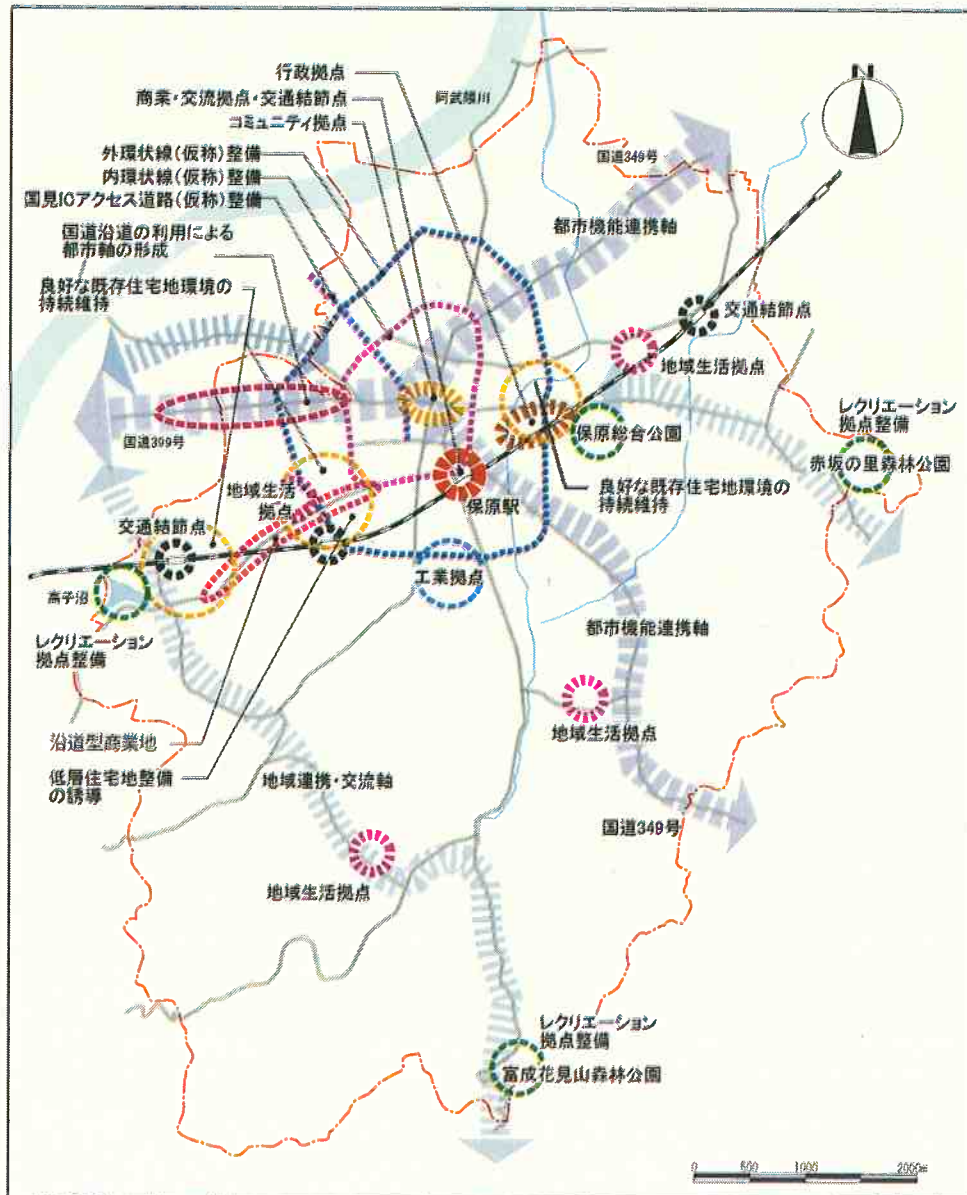
#### <地域の将来像>

## 「未来を紡ぐ 人と地域の 交流拠点のまち」

市役所本庁舎をはじめとした行政施設街を中心に、既存市街地の住環境整備、商・工業の更なる充実を図り、伊達市の中心地、未来の伊達市を紡ぐ、交流拠点としての地域づくりを目指します。

#### <拠点の配置方針>

- ・商業・業務及び行政機能が集積している現況を考慮し、本市における中心機能拠点を市街地に配置します。
- ・国道 399 号沿道は、都市機能連携軸形成にふさわしい沿道施設を適正に配置します。
- ・保原工業団地に隣接させた新たな工業生産拠点を配置し、既存の工業生産拠点と一体となり、職住近接型の雇用機会の拡大を図ります。
- ・高子地区に新たな住機能を配置し、ニーズに対応した高質な住環境の供給を図ります。
- ・阿武隈急行線保原駅などの主要駅に交通拠点を配置し、公共交通機関の利用を促進します。
- ・高子沼一带にはレクリエーション機能を配置し、市民が身近で楽しめるレクリエーション施設の整備を推進します。



## 4) 霊山地域

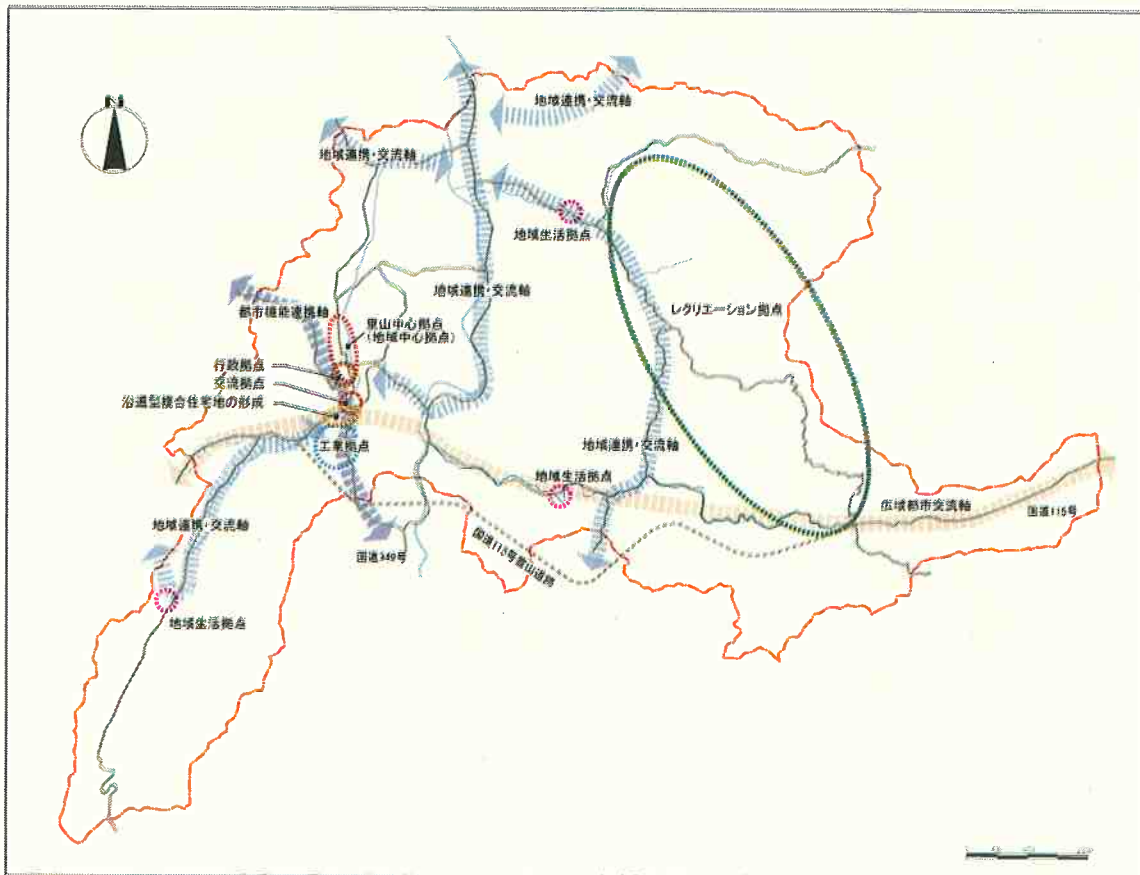
### <地域の将来像>

### 「秀峰霊山 ふれあい 和みのまち」

四季折々に違った顔を見せる霊山とそれをとりまく豊かな自然や歴史といった資源を活かし、地域住民はもとより、訪れた人がその歴史や風土に触れ合い、自然と顔がほころぶような「和み」の地域づくりを目指します。

### <拠点の配置方針>

- ・ 霊山一帯の豊かな自然環境、文化・歴史資源等を活かし、観光・レクリエーション機能を形成する地域とし、観光・レクリエーション機能拠点を配置します。
- ・ 下小国藩木地区には工業拠点を配置し、職住近接した地域における雇用機会の拡大を図ります。
- ・ 地域中心拠点機能を霊山総合支所や既存の商店街がある一帯に配置し、地域の日常生活を支援します。
- ・ 国道 115 号と国道 349 号交差点付近の沿道に計画的に適正規模の沿道型サービス施設を中心とする交流拠点を配置します。



## 5) 月館地域

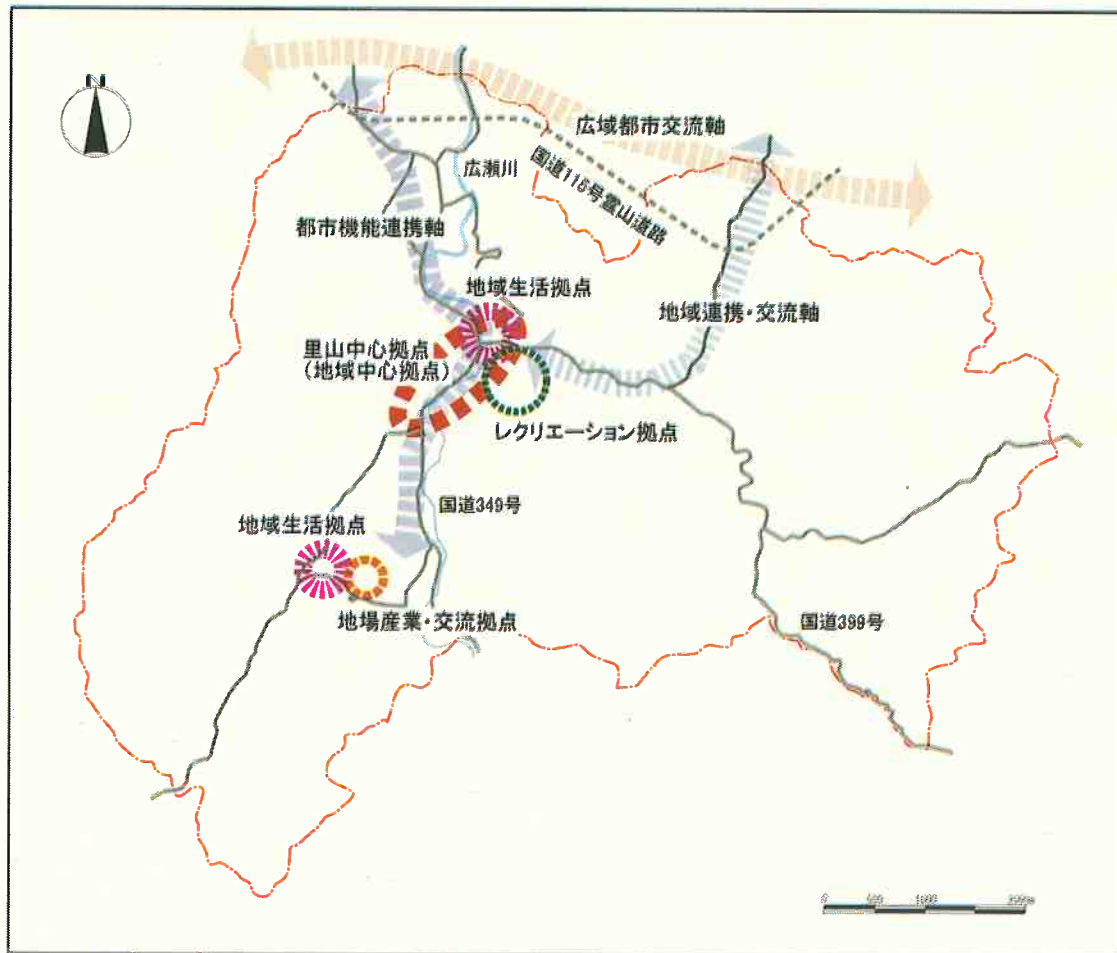
### <地域の将来像>

### 「みんな顔見知り ゆったり住んで 安心なまち」

自然豊かな昔ながらの里山に残る「みんなが顔見知り」という特性を活かし、人と人が織り成す「人の和」、「家族の和」、「地域の和」を大切に、安全・安心でゆったり暮らせる地域づくりを目指します。

### <拠点の配置方針>

- つきだて花工房一帯を農産物の販売と来訪者との交流を図る場として、地域産業・交流拠点を配置します。この拠点を中心にして集落環境と自然環境と共生する農業生産を主体にした里山づくりを推進します。
- 地域中心拠点機能を月館総合支所や既存の商店街がある一帯に配置し、地域の日常生活を支援します。



## 6. 地域の連携を強化する機能連携軸

中心市街地や各地域の拠点を結びつけ、各地域の機能を補完しあえる軸として、機能連携軸を設定します。

### 機能連携軸の配置方針

#### 1) 各地域の都市機能を強化する軸

- ・伊達・梁川・保原の各地域を縦走する国道349号及び国道399号を位置づけます。

#### 2) 地域内における日常活動を支援する軸

- ・各地域の機能拠点や地域生活拠点を環状に結ぶ県道や市道を位置づけます。
- ・各地域と鉄道駅の間を結ぶ県道や市道を位置づけます。

図. 地域構造図

